

令和6年度 入学式式辞

すがすがしい風が六甲山系を吹き抜ける今日の佳き日、兵庫県立西宮甲山高等学校第42回入学式を挙げていただけますことは、本校にとって、この上もない喜びとするところです。

本日、PTA会長様をはじめ、多数のご来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和6年度の兵庫県立甲山高等学校第42回入学式を挙げていただけますことに、本校の教職員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。

先ほど入学を許可しました141名の皆さん、入学おめでとうございます。今日から皆さんは、西宮甲山高校42回生として本校で学ぶことになりました。自然豊かで小さな学校であるこの環境を生かして、学んでいただくにあたり、皆さんにこれから、本校の校訓である基「己を究め ふれあいのなかに 明日を拓く」に沿って私から伝えたいこととお話しします。

1つ目は「己を究め」です。皆さんはこれまで、様々な形で保護者や周囲の大人に守ってもらえましたが、徐々にですが、自己の責任が重くなります。だからこそ、己を究めること、将来一人で生活できるように力をつけることが求められます。自己で責任を取ることができ、大人として振る舞えるように自己を磨いてください。具体的にどうしたらよいか。まずは、自分の考えや行動が正しいのか振り返ることが大切だと思います。他の人の考え方や言動も参考にすると良いと思います。正しいことは一つとは限りません。自分だけが正しいということも滅多にありません。自分も正しいけれど、他人も正しいということも多いです。もちろん自分が間違っていることもあります。間違いに気づくことは素晴らしいことで、自分を責めることはありません。間違ったあとにどうするかが大切です。人には必ず良いところがあります。それを自分で見つけて、伸ばすようにしてください。

2つ目は「ふれあいのなかに」です。高校には当然いろんな人がいます。気の合う人、合わない人いろいろでしょう。時には何気ない一言や行動で傷ついたり、逆に傷つけてしまったりすることがあるかもしれません。ふれあいの中では避けて通れないことだと思います。まず、人を傷つけないようにするにはどうしたらいいか。他の人のことを尊重し、他の人の意見や考え方を理解し、たとえ自分と考え方が違って中傷したりしないことです。時には、他の人の意見や考え方で、自分の意見や考え方を修正することも必要でしょう。必要なときは自分の意見や考え方を伝えることも大切です。それでも、傷ついてしまった場合は迷わず周囲に相談してください。時間がかかるかもしれませんが、人には「復元力」があります。高校生活を送る中で、傷つけ合うことを恐れずに、ふれあってください。高校時代のふれあいは、大人になっての財産になります。他者を尊重し自分を大切にすることを高校生活中で学んでいってもらえたらと思います。

3つめは「明日を拓く」です。

「明日」とは何か。文字通り高校卒業後の皆さんの人生そのものです。皆さんは、本校での学びの中で、様々な「力」をつけていくことになります。耐える力、楽しむ力、喜ぶ力、

自信という力です。どのような力かは人それぞれです。しかし、その力を使い自立していくことが求められます。今後、何があっても立ち上がり自立する力をつけてほしい。他者を尊重して協力しながら、新しい世の中を作る力をつけてもらいたいです。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。さて、高校生活3年間には、いろいろなことがあります。悩んで家で泣いている、先生に叱られて家でむしゃくしゃしている、保護者の皆さんに愚痴を言う、などということがもしかしたらあるかもしれません。考え、悩むことで人は成長します。特に高校生はなおさらです。どうかそんな時には、生徒の話聞いてあげてください。ただ気をつけていただきたいのは、多くの場合、生徒は誰かに聞いてもらえたことで、気持ちが落ちつき次に向けて気持ち新たに歩むことができることがあります。周囲の大人がともに共感して生徒の話聞き、問題の解決において一人で抱え込まないことを伝えていただき、もし心配なこと不安なことがあれば、いつでも担任までご連絡ください。

本日入学された生徒の皆さん全員が、本校の3年間で大きく成長し、社会で活躍できる人となって卒業していくことを祈念し、式辞といたします。

令和6年4月8日

兵庫県立西宮甲山高等学校長 田中 優至